

本支房
所藏之
古圖

義士男子の姓名

元禄十六年二月四日四家子預けの義士子自裁と賜文存同月
 六日執政より義士四十六人の男子十五歳より以上八遠流に交
 せられ十五歳未満の若くは母あらずの親族子預けさせられ十五歳
 未満にて島へ遷させしむる者ありしは幸原子及ぶらうら
 と仰せ置けるは戸子住める妻子は即日奉行より召出さるる者

師大坂子住める若くは此所の奉行に預けしむる者ありて中流に置
 の城下子住し八五の由り城主に取と奉り江戸に召して去流
 せらる

大石吉千代 内務子二男年十三歳子出家し祖練と稱す

同 大之助 内務子三男年二歳

片屋新六 内務子子年十二歳

同 大之助 日人の三男年九歳

間津定八 名丈夫二男年二十歳 定八本多子住し本多子孫

菅田傳介 忠孝子二男年二十五歳 傳介本多子孫住し

原十次郎 忠孝子年五歳母子出家して奉りて稱す

田代長三郎 助孝子年二歳

不破大五郎 教方子 年二歳

中村忠三郎 助子 年十五歳

同 勘次郎 日人二男 年八歳

本村宗十郎 吾方子 年九歳

右是次下命 本村宗十郎二男 年八歳 右是次下命 養子とす

茅所松十郎 和助子 年九歳

夏向清十郎 吾方子 年二歳

村松政右郎 在養子 年十三歳 政右郎 小坐三系家子 仕てり

矢野信十郎 吾方子 年九歳

畠山高友松 八十歳 子 年十歳

同 五郎助 日人二男 年八歳

以上十九人

鳩巢逸話 小右内藤介三男 大之介 八系 極甲 延又古友家 老石 東

深五重 楠方小母も一雨子 在在 外 処 廣島 一引 五 故 系 極 家 子 傳

庄深 権海 まで 多う 外 内 藤 介 先 知 の 通 子 五 石 下 五 故 家 子

お鷹子 下 一 統 何 礼 も 此 尤 有 幸 珍 重 あり として 吾 一 故 五 石 出 したる

やう小 小 右 内 藤 介 小 右 内 藤 介 先 知 の 通 子 五 石 下 五 故 家 子

士 叔 健 言 源 小 も 多 あり として 一 五 八 重 永 中 大 故 の 行 在 礼 して 附 石 源 の

今も 後 番 の ごとく 同 附 の 幸 あり

覽

浅井内匠 家来

中村 勘助 妻

勘助 助 領

中村 忠三郎

日 勤次
娘 孝人

太勤助妻子私家来三向村十市右妻自前ニ存在
一十市右夫倭勤助実方ニ甥不て此存以上

松平太右

中村勤助

中村忠三市

日人波男
勤次

右五人私家来三向村十市右夫手前ニ存在

一十市右夫倭勤助実方の甥不て此存以上

右中村勤助

一浅野内匠次家来今右一列仕内是向五市右人と申老學の以五

右乃倭を拙者甥伊丹半右乃解少て男子一人出生仕不て不縁子

て五年以難別仕五市右乃世傳伝十市右九年九歳在成私

養子伊丹新母為子甥少く此存不有新母方少列五市右尤正初分

父五市右乃を父子の義絶為仕假名お改メ今程吉川市ニ居申中

一伊丹新母倭実父ハ伊丹半右乃とて

一伊丹半右乃倭ハ太右保曹有吉紐此小性但此善お勤中ハ以上

午
五月

是邦後何也

一帯後屋上ハ残異世妻はゆ大弥此堅固此勤不煩此事ハ然ハ浅

野内匠元家来片是深五右乃倭新六六ハ初義去春分御付通

右倭共ニ祖父書地ニ存在ハ半人見玉お多傷ニ被五十五歳在成ハ

公事出ハ方中一有並ハ惣妻兄新六倭ハ知恩院未古降土宗来

都大寺院才より物儀ハ本法寺末寺日蓮宗伏見本教古紙日記
書之以島免々分分予子不仕出家いさそ中るる書役所まで中
出外儀々此有古社存形中まで大教書ともこの未紙破まで

平手紙被付不然ハ浅野内匠元家末周歴久夫次男貞八者向忠居人
次男信内揚州本任古欲龜山屋有ゆり別紙書付この不破紙は紙被
手紙集此本永古輪番紙多下付外何も面上は信水之以上

二月九日

本多孫正少弼

田越あ古孫

一平永年中禁裏炎上ありて君極家以送當の事ありつるを
りて不東海五善信善信善信として京所子ありしは杉原希は戸子
て大教か子とこれら多小よりて義士の男子を信公免の山は法あり

その事と仰せ候さる此書系所より不東が中不今ぬきれば
予は服と着て瑞光院ふり義士並像の前より書の封を
らき言声あさそ神重子告げらるる東が初馬誠子有ある一と人
感ドあつたさそ島子カきさる若十九人の中その年いま十五歳は満
さるもの八島子赴く村松政志二十四歳 吉岡信内 二十五歳 周歴貞
八平歳 中村忠三郎 十五歳この四人は若とも不取和子赴くるあをれお
了負八島あそ病死あり死る三人八人をあをを逢と穢りてあめり
その日とおろものすきと一紙難幸苦とさしてつひ不再び存る子
久

義士墳墓

淡野内匠頭家来大内蔵尉良雄

忠誠院及空淨劔居士

元禄壬辰癸未二月廿日 行年五十五

吉田忠左衛門

行年六十三

原惣左衛門

元辰

左岡源三衛門

行年五十二

間瀬久大夫

行年五十二

正明

行年六十一

小野寺重内

行年六十一

間喜兵衛

光延

磯貝即左衛門

行年六十五

堀部妙兵衛

行年七十八

進松勘六

行年七十五

富森助右衛門

正因

大塚徳劔居士 行年七十七

矢野五郎左衛門 行年七十七

又法參劔居士 行年七十九

奥田徳夫 行年七十九

又察周劔居士 行年七十九

赤塚藏 行年七十九

又廣忠劔居士 行年七十九

早水藤左衛門 行年七十九

又破了劔居士 行年七十九

又朝田三左 行年七十九

又堀田三左 行年七十九

又摸理劔居士 行年七十九

又堀田三左 行年七十九

又堀田三左 行年七十九

又世春劔居士 行年七十九

又富樫劔居士 行年七十九

又國長十左衛門 行年七十九

又柳井劔居士 行年七十九

又澤間 行年七十九

又澤間 行年七十九

又澤間 行年七十九

又勇相劔居士 行年七十一

又隨露劔居士 行年七十五

又毛知劔居士 行年七十八

又周求劔居士 行年七十五

又泉如劔居士 行年六十五

又以串劔居士 行年六十一

又村松善兵衛 行年六十一

又有梅劔居士 行年六十一

又村野十左衛門 行年六十一

又可仁劔居士 行年六十一

又豊實劔居士 行年六十一

又前高 行年六十一

又補天劔居士 行年六十一

又風城劔居士 行年六十一

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又大塚 行年七十九

又上樹劔居士 行年六十一

又雲煙劔居士 行年七十四

又中村勘助 行年七十四

又露白劔居士 行年七十四

又水流劔居士 行年七十四

又觀祖劔居士 行年七十四

又道五劔居士 行年七十四

又通音劔居士 行年七十四

又回遠劔居士 行年七十四

又電石劔居士 行年七十四

又無一劔居士 行年七十四

元禄十六年二月四日官使四侯子より命と傳へ自裁と賜ふその日
越前君良雄子五とよまひ親みあつたをれは長雄少く恩美
と諒一語で中々を臣が素志の如く今日自刃とひ死と泉
岳古子壑ミトさるべし一丘や生きたる存の望ミ此事よかと中々
よよよて四侯も子美の刻限と同日と志て騎士歩卒嚴重
小整固一とあつた寂とて哀傷うきうきと鳴呼一丘とあ
よハ鬼神も慟哭すべし

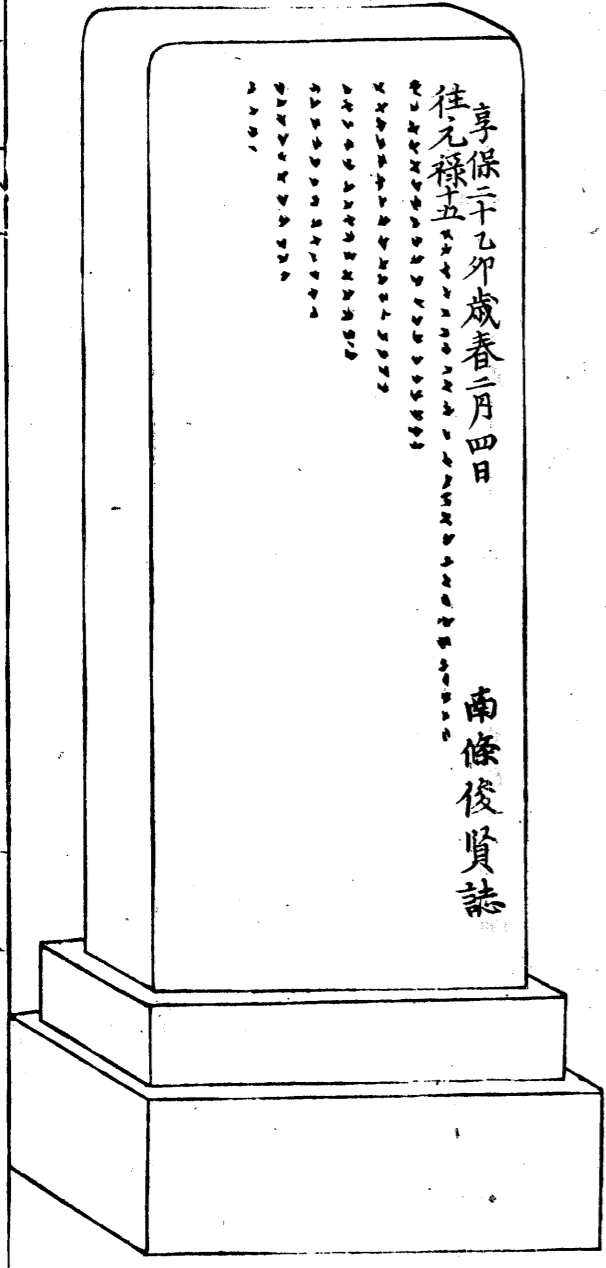
南條氏義士の三十回忌に建ふ碑銘

往元禄十五冬大石良雄其黨四十有餘人積沐雨擲風勞遂
亡君之讐而清弗與共戴天之義有司討論其罰明年二月四
日齊賜死實古今忠臣和漢未聞其例與豫讓田橫徒豈同日

而可論之乎故天下舉而稱歎之奮發興起主向義之心嗚呼
是深志之餘澤乎今茲乙卯當三十三回忌一家親族羣參如
市予雖非其類感激忠義英志而寄附石碑彫刻一章以垂勸
善之功於不窮云

享保二十乙卯歲春二月四日

南條氏俊賢誌



享保二十乙卯歲春二月四日

南條俊賢誌

龜田鵬齋の赤穂義士碑

赤穂四十七義士碑

義烈之出於精誠而動天地感神明者其盛燭凜乎為百世人臣之標準焉乃可以敦薄俗奮士風矣元祿年間故赤穂侯卿吉良氏不遜刺之於廷中不克乃坐不畏朝廷賜死國除以其變出不虞一藩臣士倉皇失措議論鼎沸人心洶々其趨起不能自振者縮手墜膽逾久要之盟奔舊迎新挈室而逃之其輕躁威嚴暴徒負志氣者皆奮然扼腕以期據城拒致死殉君而勿去耳殊不料其所以戮君臣之綱常犯國家之典憲及重先君之義也大石良雄赤穂老臣也乃從容拒群議守禮奉法獻城而違之其志蓋在報先君之讎也於是歛舊藩志士四十六人

自操節制而堅衆志定謀分部夜潛入于吉良氏邸殪之於一擊卒霽先君之幽寃於九泉下矣然以寅夜擁衆動兵於都下府廷依其律以各賜死焉泉岳寺侯之功德院也其寺僧恩公請其屍得允瘞諸先君墳塋之左右乃表曰四十七義士之墓嗚呼恩公亦義士哉凡往來其下者率徘徊歎噓而不能去迄今百有餘年而人之思慕如一日雖小夫婦人孺子皆能誦其姓名感激流涕稱而不已其義烈之出於精誠而所以動天地神明者凜々激厲千古耿々乎共宇宙不磨也如此矣且良雄首事唱義之間韜其心跡而不洩其謀經歷困踣而不挫其志先事而候仇家之便察其嘖呻與其睨眴或耽酒招妓以銷吉良氏之忌而解其警焉其意念深苦非一日之積也又使彼四十

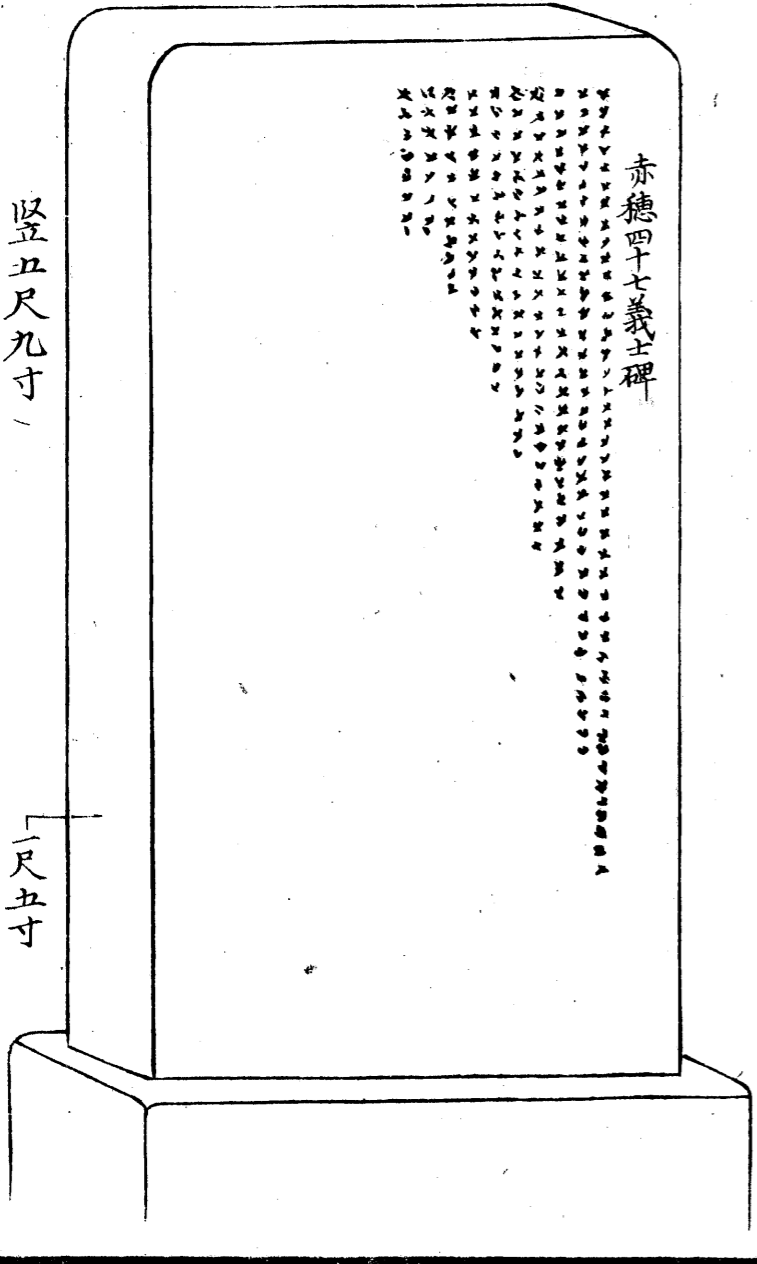
六人皆承其指揮守其節制一舉以善濟其事則又可以併觀
 優才足以運籌深智足以投機矣此其盛歟之以所前後有一
 而無二獨赫々乎耀於千古者蓋亦在乎斯矣嗟呼夫天理人
 心誰實無之苟有人心者又惡得不飲其風而悲其志哉余每
 聞赤穗遺臣事未嘗不感激扼腕而為之橫涕也而當時談者
 妄構異論設曲說以擅議其事至其甚者則誤認春秋書法題
 義士以賊稱是其人非媚嫉忠風浩節則或天理人心之滅也
 亦幾乎姦臣憚人以詭辨傷善類矣其觸神人之憤者豈可不
 畏歟謹念良雄等四十七人其心事如青天白日浩々正氣猶
 凜々能使鼓天下之義氣而激天下之士風則開世教者豈不
 亦大哉今住持釣公大轉法輪弘颺宗風於是紹故住主恩公

之志而崇義士之墓焉因余撰文勒石以建其墓側嗚呼釣公
 亦義士哉

文政二年己卯春三月

江戶 龜田興撰

赤穗四十七義士碑



竪五尺九寸

一尺五寸

右の碑石は刻字成りて泉岳寺に建し文政三年庚辰五月十四日
 里谷年より運送す法園尼の辨才天像と印施しつるも此所の
 てちふ於て書畫舎あり文人あり金す若と多うう單帖と左ふ
 載す

五月十四日

四十七義我士碑造建供養

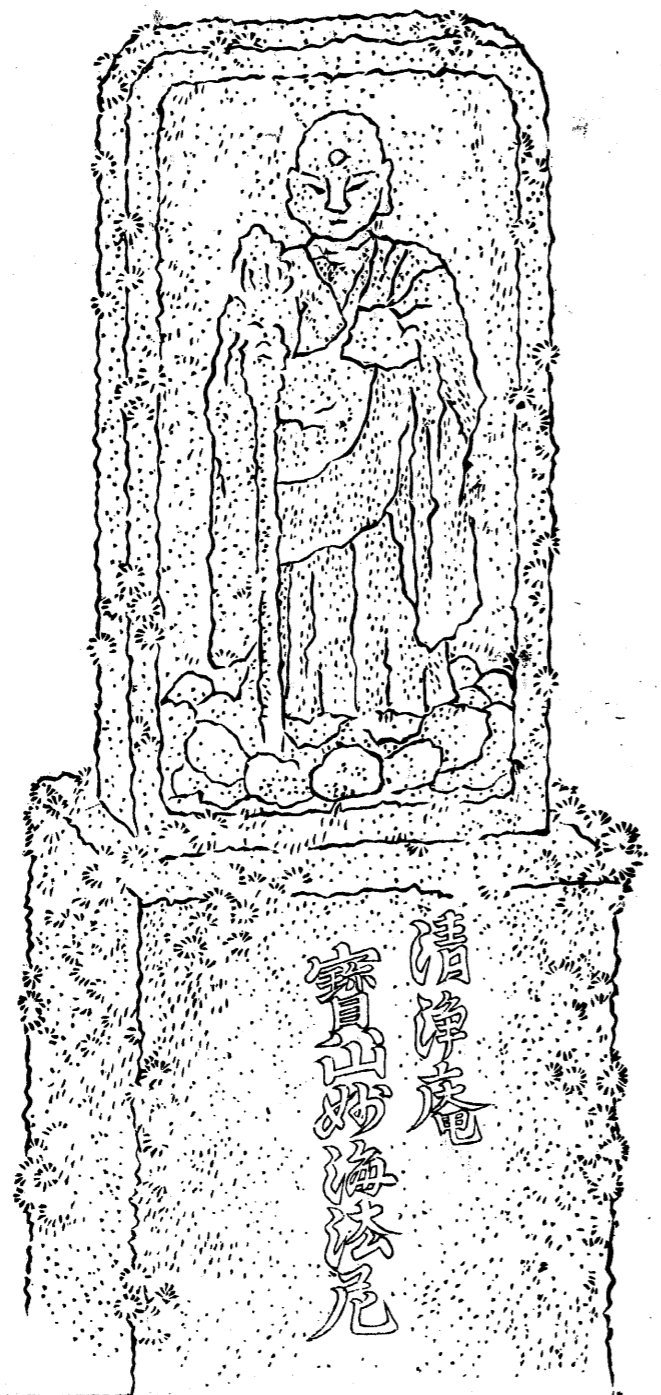
泉岳寺知事

同日於當寺追薦書画會仕

鴨齋社中等

謹白

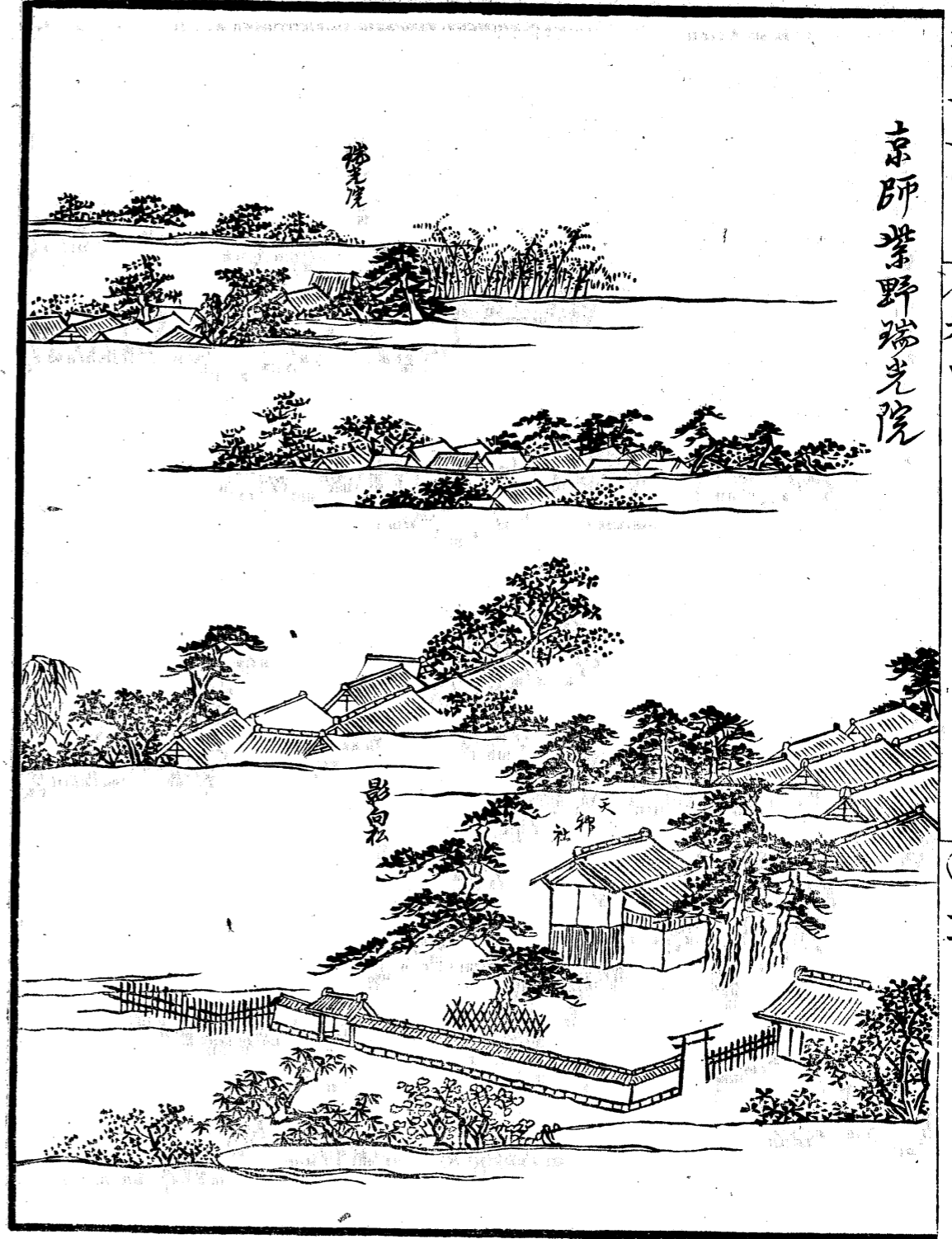
妙海尼の墓



清淨庵
 寶山妙海法尼

京師紫雲瑞光院

京師紫野瑞光院



京師紫野瑞光院ハ安居院のゆかりありむろハ浅野孫正の第宅あり鎮守
 の神と浅野撫斎と称す播磨赤穂の城主は孫正内匠長矩と
 此外家臣の塔一基あり瑞光院の竹の子内務助の画像辞世の稿
 云々書翰あり

瑞光院の起立は浅野家子縁故ありと傳ひつる一々諸
 考あり

播磨赤穂基重山華藏寺

華藏寺を赤穂假屋村にあり昔洞禅宗より利岸和尚基あり
 浅野采女正の法号と華藏院と称すよつて寺号とてこの古れ境内小
 冷光院と名づり大石良雄以下四十余人の義士の石塔を建て以石の泉
 岳古より名るとほしその墳墓の入り口は石碑あり忠義塚と号す